

成果指標				
成果指標	観光物産フェアの入り込み客数			
指標設定の考え方	観光物産フェアの開催により、県内外に伊予市をPRする。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標22年度
目 標	10000	11600	11200	0
実 績	11556	11137	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	<p>本年度は、繰り越し事業として、地域活性化交付金を活用し、市内宿泊施設利用促進事業を実施した。また、観光物産フェアも愛媛県大阪事務所において開催し、楽しみにしているお客さまも増えてきている。</p> <p>今後も観光物産フェア等を通じて、交流人口を増やすとともに、伊予市の情報発信を継続していく必要がある。</p> <p>JR四国の観光列車の乗車率も高く、伊予市のPRも継続していく。</p>			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	<p>自己の課題認識のとおり各種事業を実施し伊予市の情報発信や交流人口の増加に一定の効果があったと思われるが、今後、商工団体などと連携を深め、観光振興及び市物産販路拡大のための効果的な運営に向けてイベントのあり方を検証し見直す必要がある。</p>			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題